

普及活動の成果

課 題 名	水稻高温耐性品種の生産安定及び作付面積拡大	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	ながさき西海農協水稻生産者	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

ながさき西海農協水稻生産者（佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町）
（3, 584ha、6, 509戸）

【課題設定の背景】

- 1 「にこまる」は、徐々に面積拡大したが、冷夏の影響等で、平成27～28年度に伸びなかった。暑夏の影響による1等米率の安定、作付推進等で、平成29年度に増加した。県民米として人気があり、米卸から増産要請がある。
- 2 「つや姫」は、1等米率が高い産地と低い産地があり、1等米率が63.4%で、昨年度より低下したが、「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を上回った。
- 3 「なつほのか」は、極良食味の早生品種で、「あさひの夢」の代替、標高が高く「ヒノヒカリ」の栽培が厳しい地区、野菜後作地区への導入が見込まれる。

平成30年度以降の推進方策（推進スケジュール、推進地区、推進方法等）を、関係機関と確認した。

【活動目標】

- 1 「にこまる」は、推進対象として水稻生産者組織、他部会、認定農業者協議会支部に土地改良区を加え、県北地域水稻高温耐性品種推進マップを活用して標高100m以下の「にこまる」推進地区に推進する。
- 2 「つや姫」は、各地区つや姫部会を対象に、適正な栽植密度、水管理、施肥、病害虫防除、収穫期等栽培技術を指導し、生産安定を図る。
- 3 「なつほのか」は、推進地区を5地区から9地区に増やし、新たな推進地区で、展示圃の設置、立毛検討会、米試食会等産地化に向けた取組を支援する。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

- 1 農協と連携し、「にこまる」の栽培技術指導、作付推進を行った。
- 2 農協と連携し、「つや姫」の栽培技術指導を行った。
- 3 農協、市町、全農ながさき農産部、農産園芸課、農林技術開発センターと連携し、「なつほのか」の現地検討、展示圃成績検討、栽培基準検討、推進方策検討を行った。

【活動経過】

- 1 他専門G（野菜、花）と連携し、水稻生産者組織、他部会を対象に、「にこまる」の作付を推進した。新たな推進対象として土地改良区を加え、品種特性の周知による作付推進を行った。
特A「にこまる」圃場を設置し、中干し等管理技術を指導し、坪刈・調製を行った。
- 2 各地区「つや姫」部会に対し、穂肥検討会、栽培反省会等で、栽培技術を指導した。
特別栽培「コシヒカリ」産地の前平地区で、「つや姫」の作付検討を支援した。



<「なつほのか」栽培講習会>



<「なつほのか」穂肥検討会>

3 各推進地区において、「なつほのか」産地化に向け、展示圃設置・調査・検討、栽培講習会、現地検討会栽培反省会、等による栽培技術指導、米試食を行った。

作物部会において、「なつほのか」推進方策等を検討した、関係機関と連携し、米卸業者を含む現地検討会、佐世保市で開催された「なつほのか」推進研修会に参画した。

営農座談会において、「なつほのか」栽培のポイントを指導し、農協水稻部会加入を促進した。

【普及活動の成果】

- 1 「にこまる」の1等米率は76.2%と良好で、「ヒノヒカリ」54.8%を上回った。
- 2 「つや姫」の1等米率は92.1%と良好で、「コシヒカリ」65.0%「ヒノヒカリ」54.8%を上回った。柚木地区、平戸地区は、「つや姫」の1等米率が100%であった。
- 3 水稻高温耐性品種の作付面積は492haとなり、目標は達成できなかったが、水稻作付面積が昨年度から54.6ha減少する中、「なつほのか」を中心に高温耐性品種面積は67ha増加した。

「なつほのか」の1等米率は89.6%と良好であった。

農協水稻部会が、平成30年度末に設立された。

柚木地区「つや姫」部会が、平成31年度から「なつほのか」へ品種転換することになった。



<「なつほのか」初出荷式>

【対象の声】

「なつほのか」は品質が良く、販売イベント等の評判も良く、品種に対して自信を持てた。地区の祭の試食会で食味良好だった「なつほのか」を、「ヒノヒカリ」の代替品種として期待している。

【今後の課題】

- 1 「にこまる」は、県民米として人気があり、米卸から増産要請があるが、一部、「にこまる」から「なつほのか」への品種転換が予想される。作付面積の維持・拡大を図る必要がある。
- 2 北松地区はカメムシ被害で2等が発生した。
「つや姫」は、安定して販売されている。平成31年度から、柚木地区が「つや姫」から「なつほのか」に品種転換するため、他地区における産地化を支援し、作付面積の維持を図る必要がある。
- 3 「なつほのか」は、平成30年度の作付面積が73haに拡大し、平成31年度以降、更に拡大する見込みである。「なつほのか」生産者が増える中、栽培技術の高位平準化による生産安定を図る必要がある。

早期「なつほのか」の展示圃を設置し、収穫時期が早期「コシヒカリ」より10日程度遅かった。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- 1 県北地域高温耐性品種推進マップ、推進チラシにより、水稻生産者組織、他部会、認定農業者協議会支部、土地改良区等を対象に、標高100m以下の「にこまる」推進地区への作付を推進する。
- 2 「つや姫」の適正な病害虫防除等栽培技術を指導し、生産安定を図る。
前平地区の「コシヒカリ」から「つや姫」への品種転換を推進する。
- 3 農協と連携し、「なつほのか」生産者の農協水稻部会への加入を促進する。水稻部会等を対象に栽培指導を行い、栽培技術の高位平準化による「なつほのか」の生産安定、作付面積拡大を図る。

早期「なつほのか」の展示圃を設置し、調査結果に基づき、県北地域における早期栽培技術を確立する。

【発表・参考資料】 無し